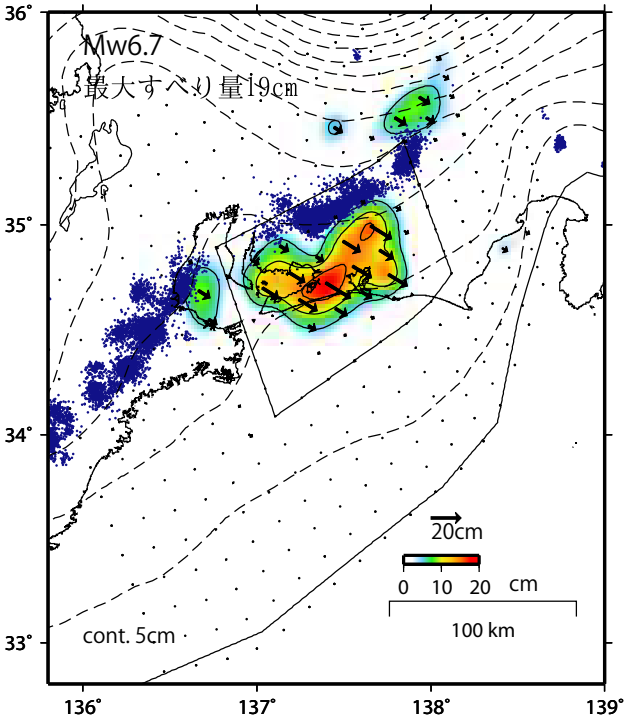
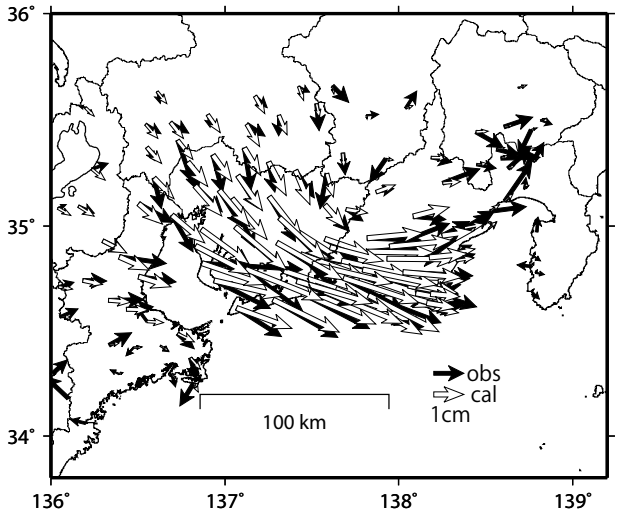
GNSSデータから推定された東海地域の長期的ゆっくりすべり（暫定）

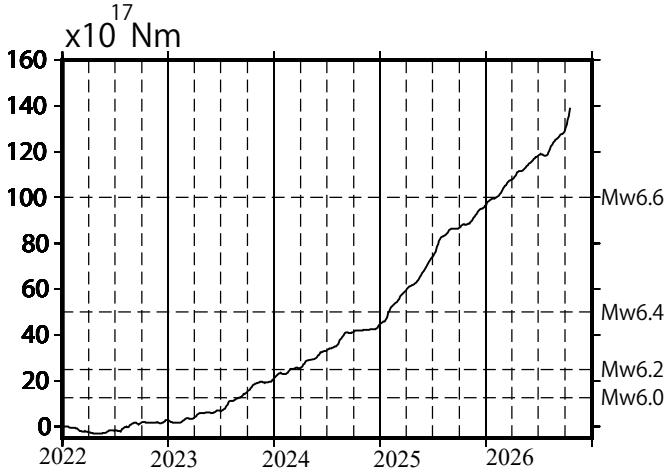
推定すべり分布
（2022-01-01/2026-10-19）



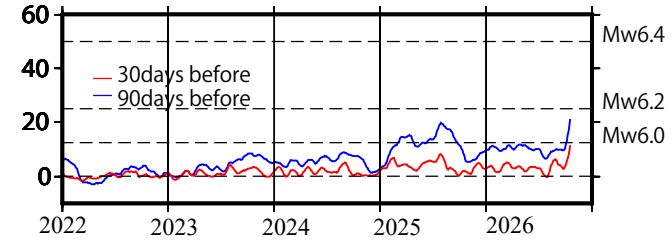
観測値（黒）と計算値（白）の比較
（2022-01-01/2026-10-19）



モーメント時系列（試算）



モーメント変化量の時間変化（30日間及び90日間）



Mw及び最大すべり量はプレート面に沿って評価した値を記載している。
すべり量（カラー）及びすべりベクトルは水平面に投影したものを示している。
推定したすべり量が標準偏差（σ）の３倍以上のグリッドを黒色で示している。

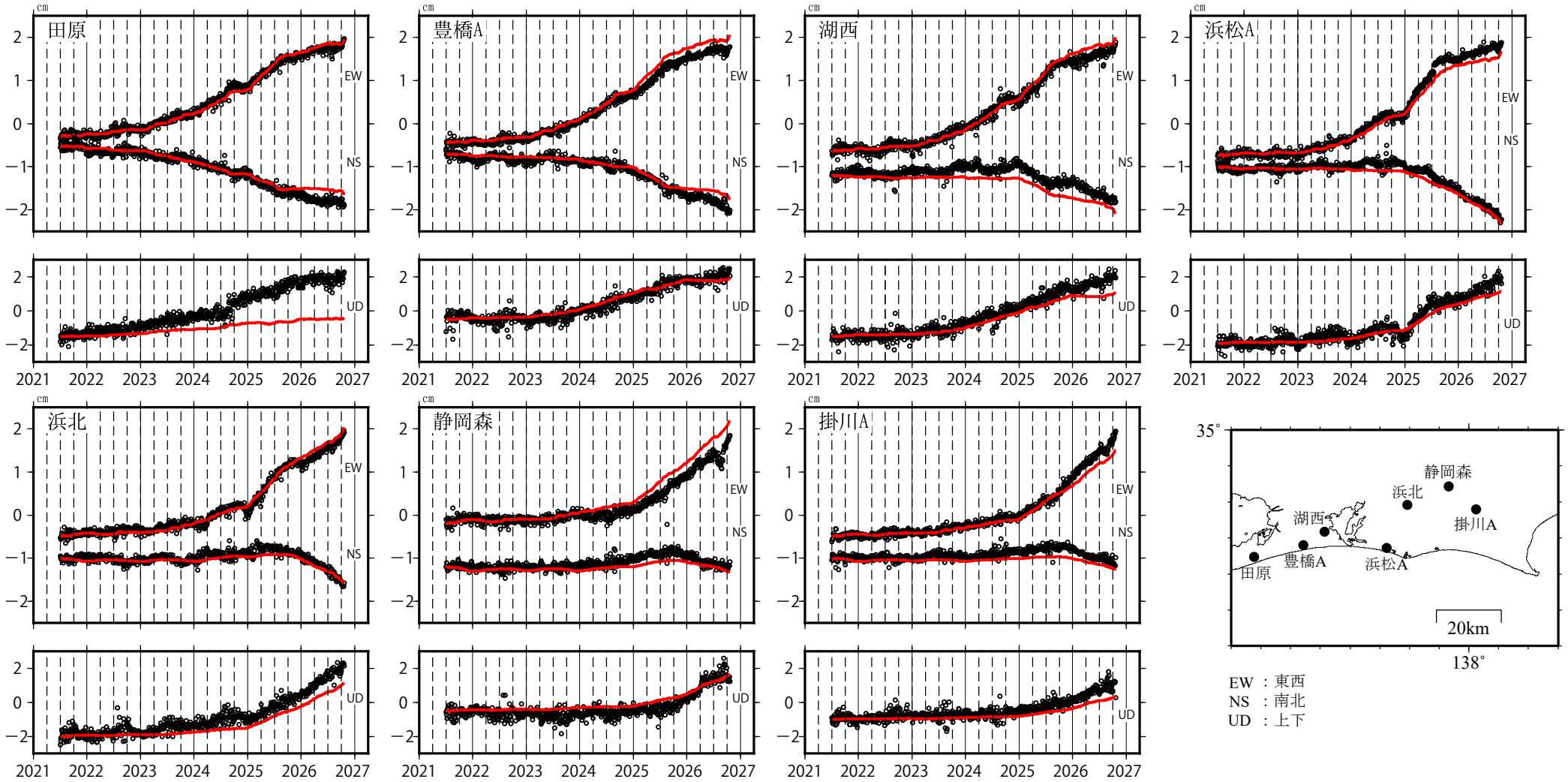
使用データ:GEONETによる日々の座標値(F5.1解、R5.1解)
　　F5.1解(2021-07-01/ 2026-10-03)+R5.1解 (2026-10-04/2026-10-19)
トレンド期間:2020-01-01/2022-01-01（年周・半年周成分は補正していない）
モーメント計算範囲:左図の黒枠内側
観測値:３日間の平均値をカルマンフィルターで平滑化した値
黒破線:フィリピン海プレート上面の等深線(Hirose et al.,2008)
すべり方向:プレートの沈み込み方向に拘束
青丸:低周波地震（気象庁一元化震源）（期間:2022-01-01/2026-10-19）
モーメント:断層運動のエネルギーの目安となる量。

固定局:三隅

解析での補正内容
＊電子基準点の保守等による変動
＊共通誤差成分を推定
＊平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の粘弾性変形(Suito 2017)
＊令和６年能登半島地震に伴う地殻変動
＊令和６年能登半島地震の粘弾性変形(Suito 2025)
＊短期的ゆっくりすべりに伴う地殻変動（2017-01/ 2026-10-04:気象庁カタログによる）

国土地理院

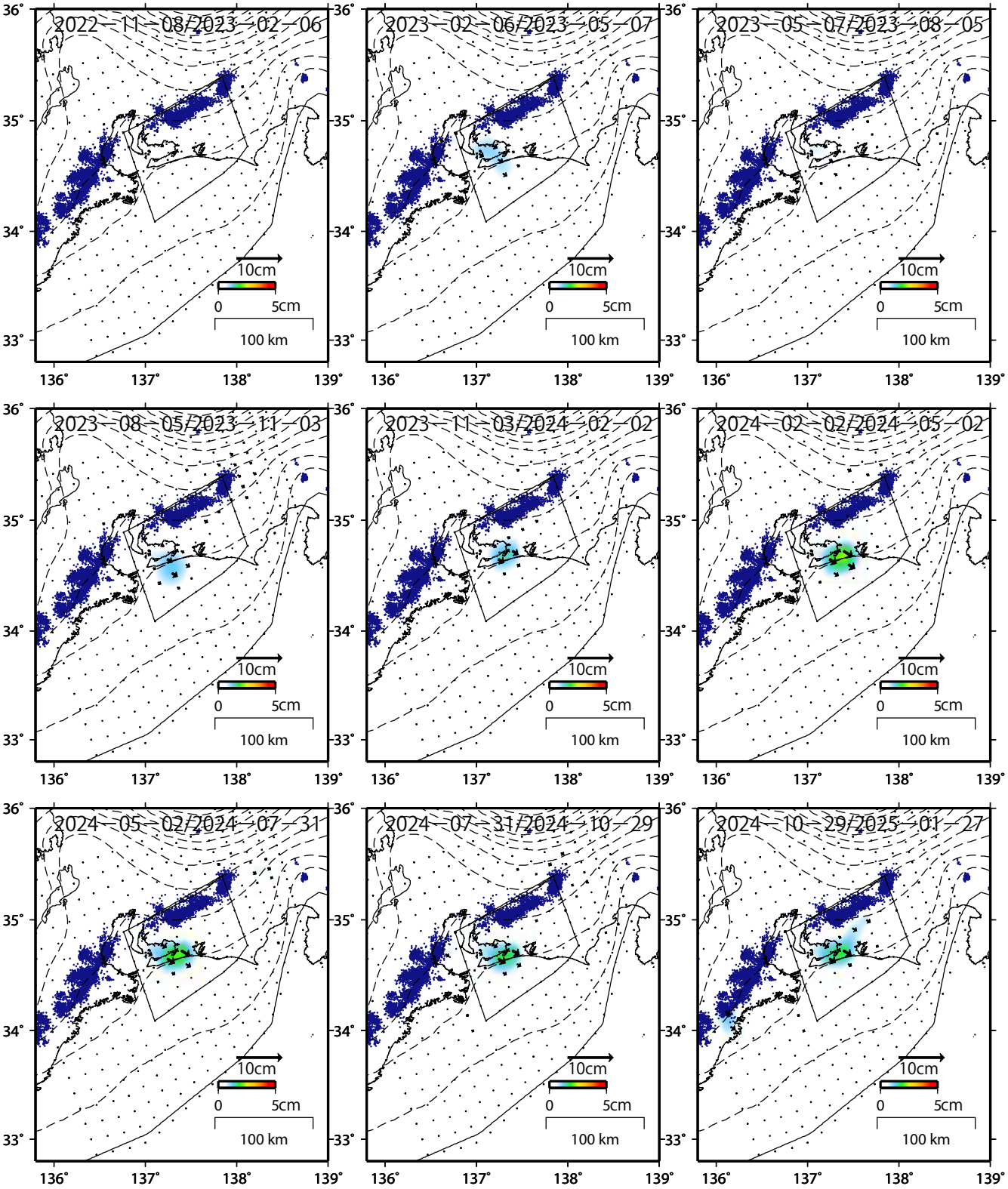
東海地域の観測点の座標時系列(黒丸)と計算値(赤線)
時間依存のインバージョン



EW ：東西
NS ：南北
UD ：上下

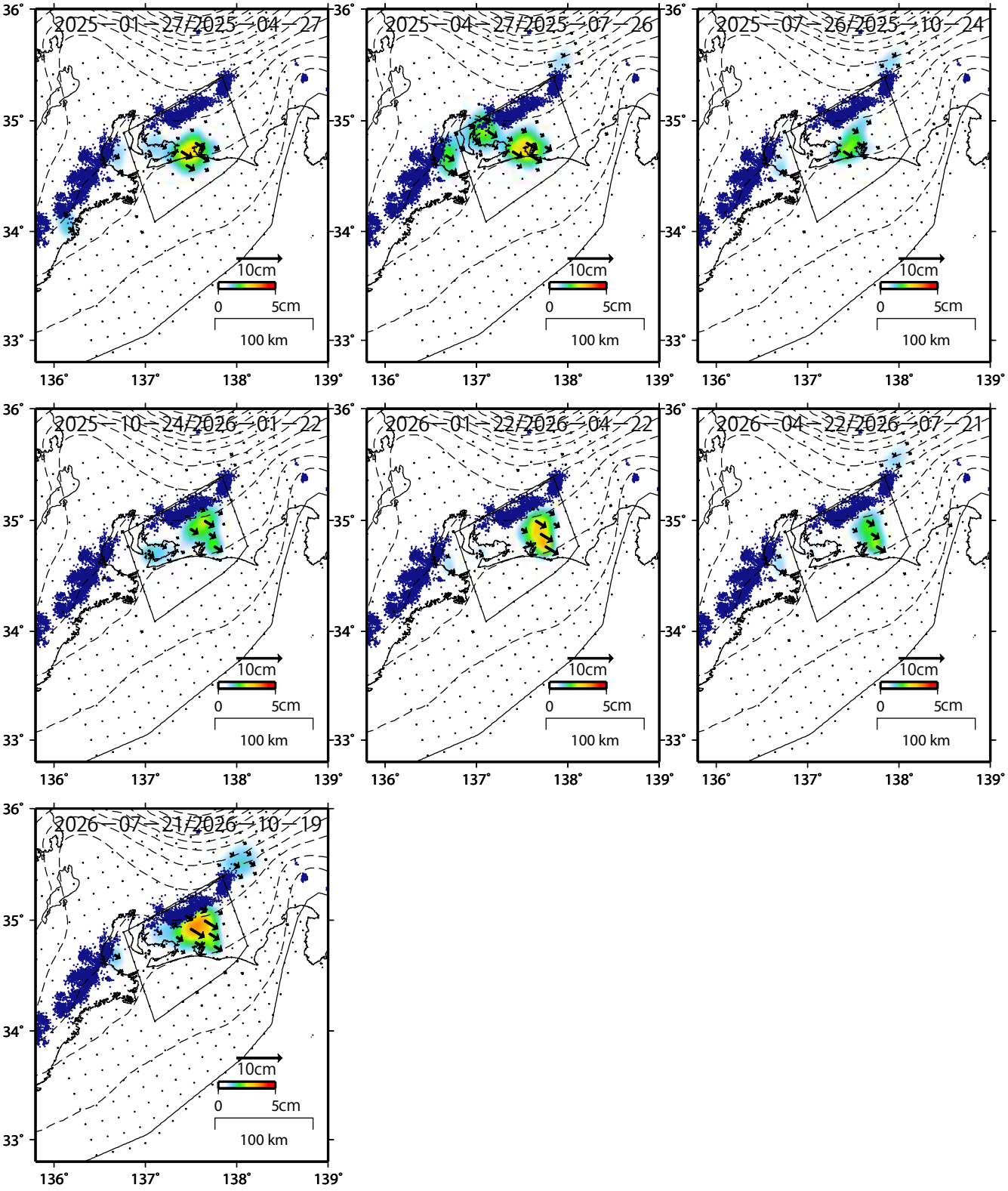
国土地理院

GNSSデータから推定された東海地域の長期的ゆっくりすべり（暫定）
推定すべり分布の時間変化（３か月ごと）



国土地理院

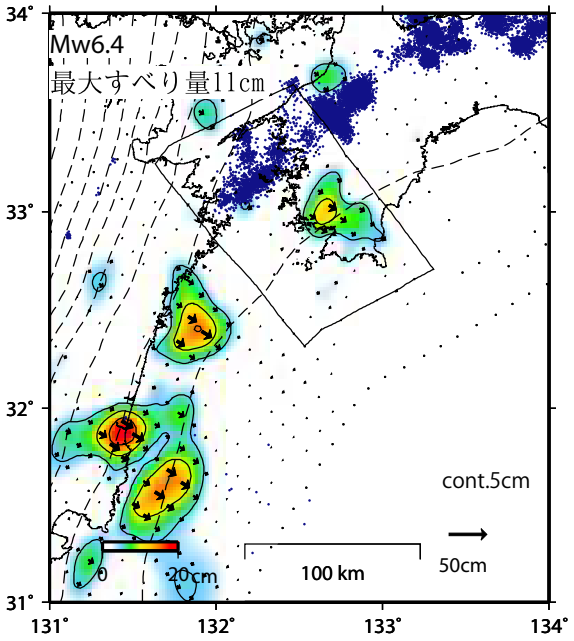
GNSSデータから推定された東海地域の長期的ゆっくりすべり（暫定）
推定すべり分布の時間変化（３か月ごと）



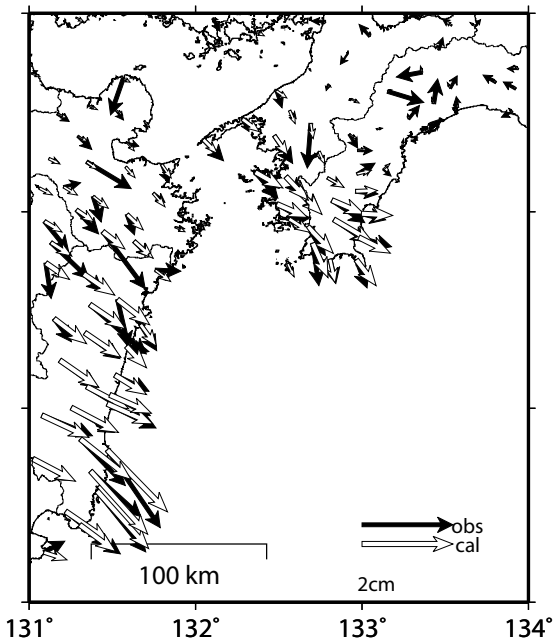
国土地理院

GNSSデータから推定された四国西部の長期的ゆっくりすべり(暫定)

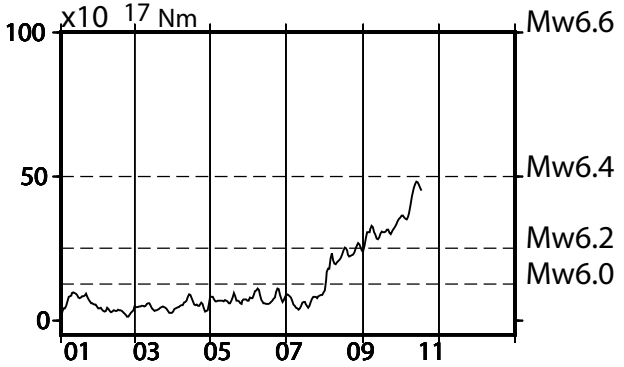
推定すべり分布
(2026-01-01/2026-10-18)



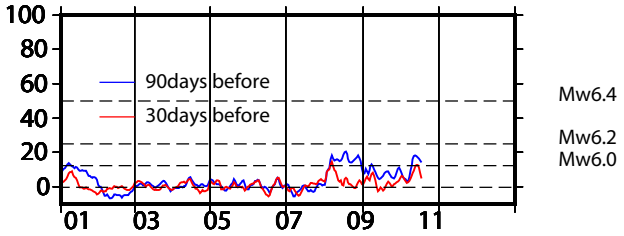
観測値（黒）と計算値（白）の比較
(2026-01-01/2026-10-18)



モーメント*時系列（試算）



モーメント変化量の時間変化(30日間及び90日間)



Mw及び最大すべり量はプレート面に沿って評価した値を記載。
すべり量（カラー）及びすべりベクトルは水平面に投影したものを示す。
推定したすべり量が標準偏差(σ)の３倍以上のグリッドを黒色で表示している。

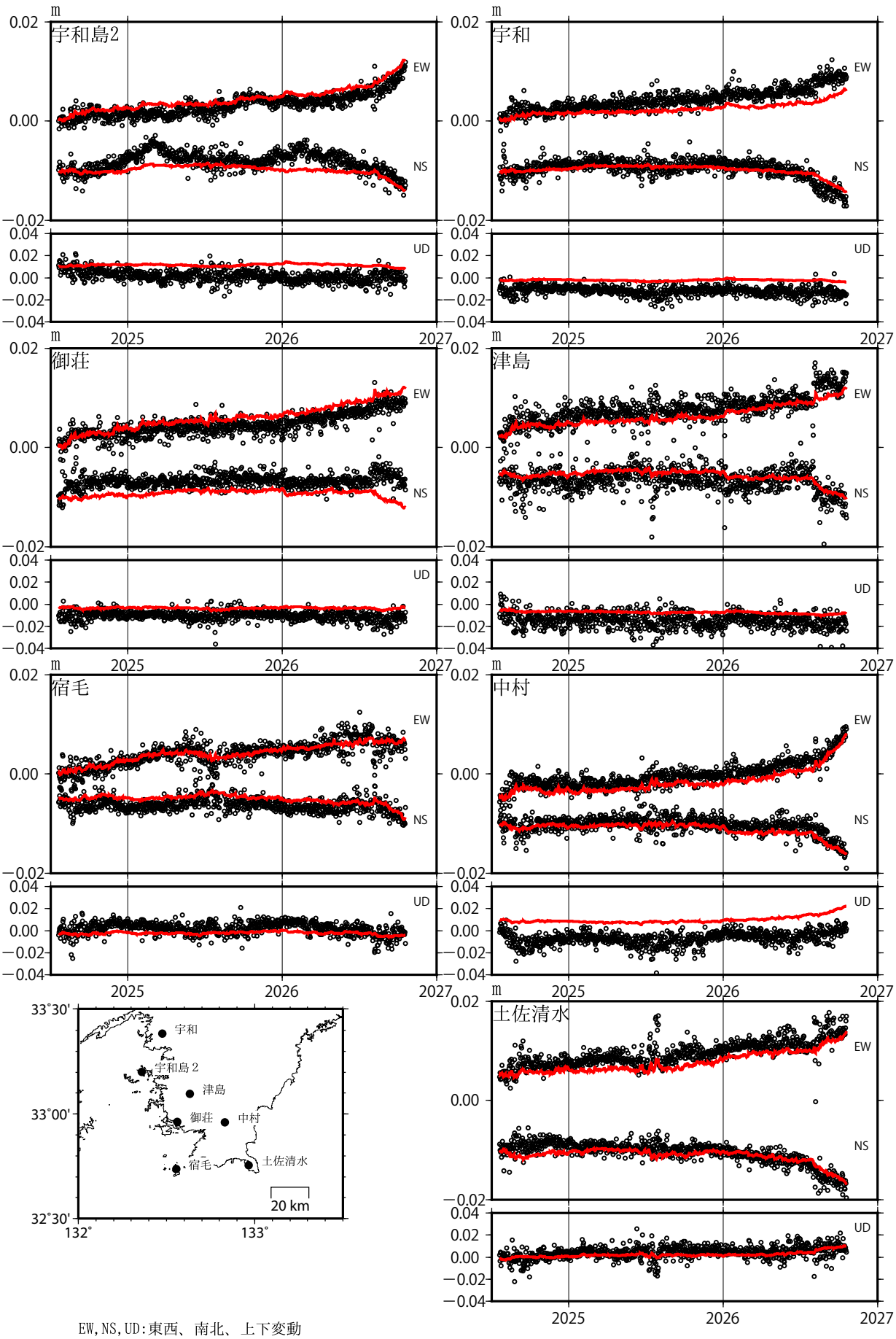
使用データ:GEONETによる日々の座標値(F5.1解、R5.1解)
　　F5.1解(2024-07-20/　2026-10-03)+R5.1解　(2026-10-04/2026-10-18)
トレンド期間:2006-01-01/2009-01-01（年周・半年周成分は補正なし）
日向灘附近:2007-10-01/2009-03-01
モーメント計算範囲:左図の黒枠内側
観測値:カルマンフィルターで平滑化した値
黒破線:フィリピン海プレート上面の等深線(Hirose et al.,2008)
すべり方向:プレートの沈み込み方向に拘束
青丸:低周波地震（気象庁一元化震源）（期間:2024-08-06/2026-10-18）
固定局:三隅

＊電子基準点の保守等による変動は補正済み
＊豊後水道の地震(2024-04-17,M6.6)の地殻変動を除去している。
＊日向灘の地震(2024-08-08,M7.1)の地震時変動を除去している。
＊日向灘の地震(2025-01-13,M6.6)の地震時変動を除去している。
＊令和８年熊本地震の地殻変動を除去している。
＊平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震及び平成28年(2016年)熊本地震の粘弾性変形は補正している(Suito,2017;水藤,2017)。
＊共通誤差成分を推定している。
＊モーメント:断層運動のエネルギーの目安となる量。

国土地理院

四国西部の観測点の座標時系列（黒丸）と計算値（赤線）

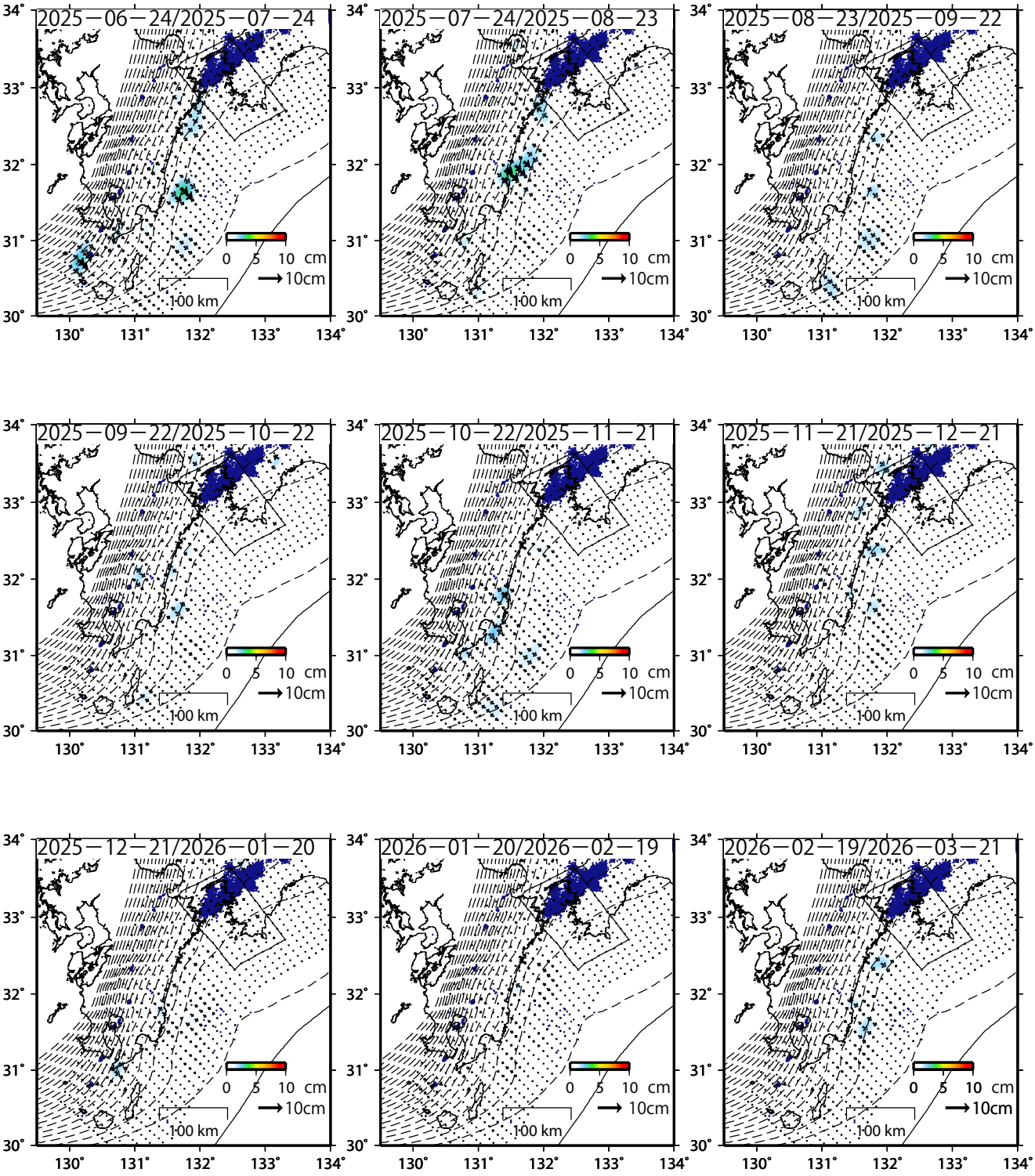
時間依存のインバージョン



EW,NS,UD:東西、南北、上下変動

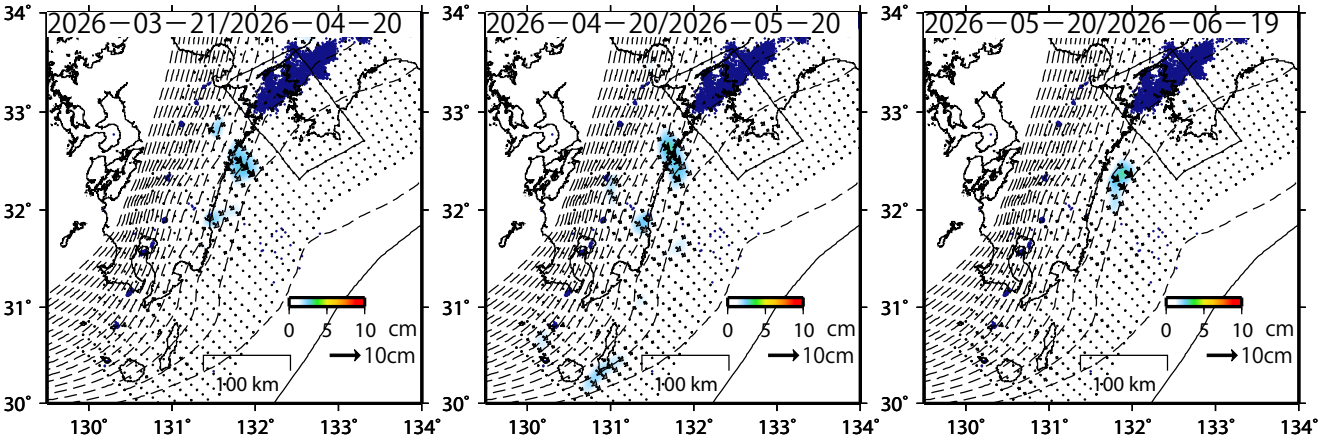
国土地理院

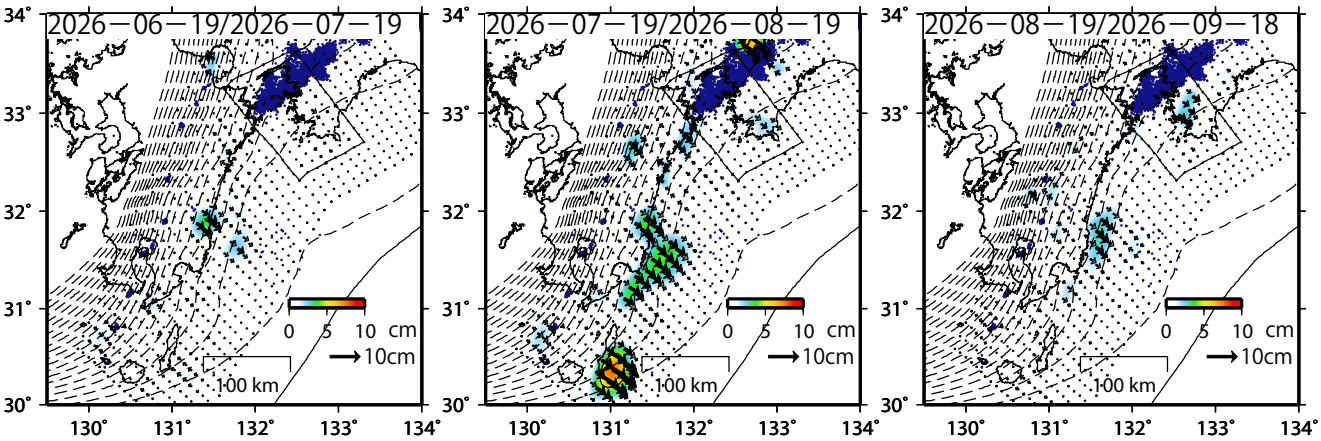
GNSSデータから推定された四国西部の長期的ゆっくりすべり（暫定）
推定すべり分布の時間変化（１か月ごと）

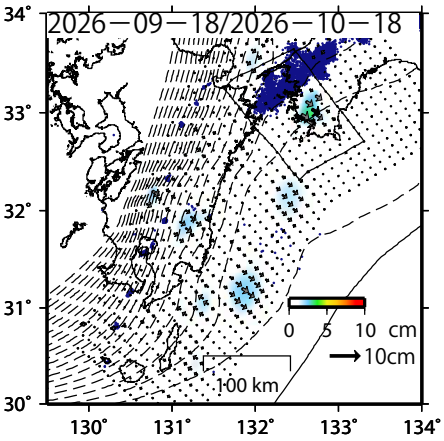


国土地理院

GNSSデータから推定された四国西部の長期的ゆっくりすべり（暫定）
推定すべり分布の時間変化（１か月ごと）





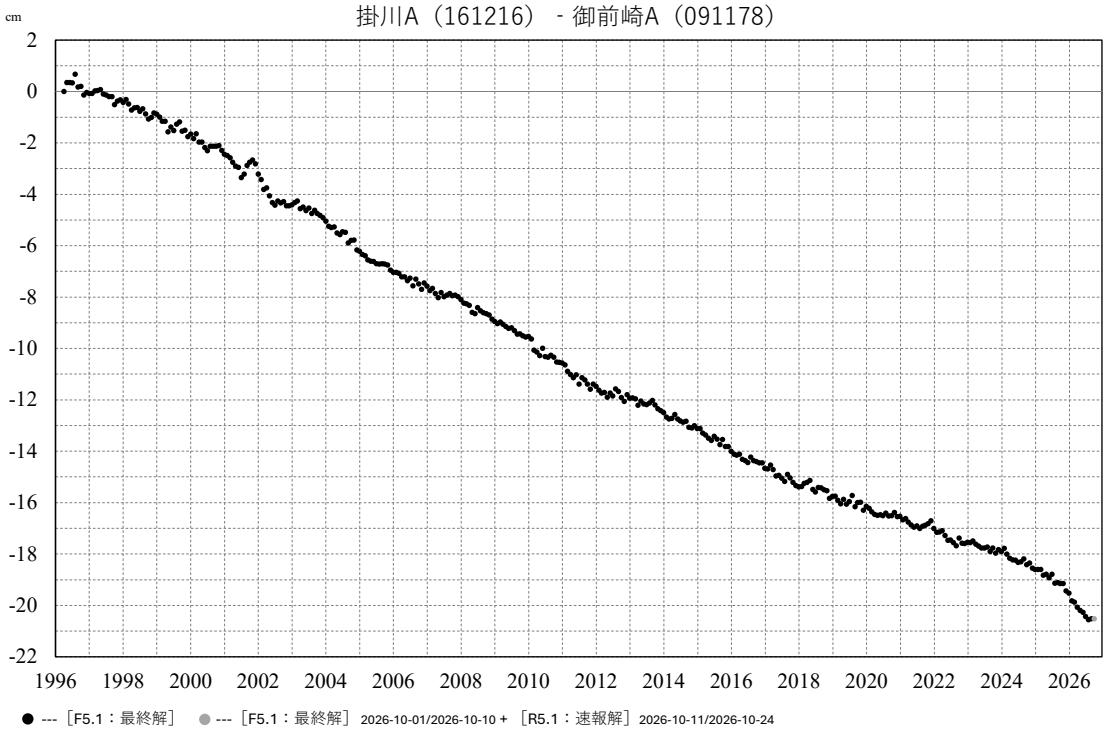


国土地理院

御前崎　電子基準点の上下変動

水準測量とGNSS連続観測

掛川に対して、御前崎が沈降する長期的な傾向が続いている。



- GNSS 連続観測のプロット点は、GEONET による日々の座標値（F5.1:最終解 及び R5.1:速報解）から計算した値の月平均値.

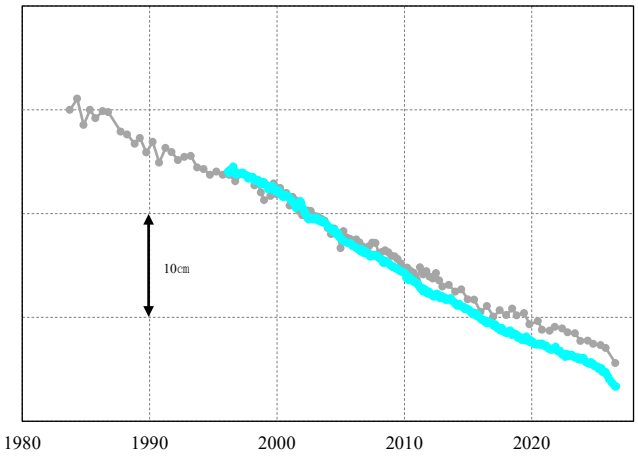
※ 2009 年8 月11 日の駿河湾の地震に伴う電子基準点「御前崎」の局所的な変動について、地震前後の水準測量で得られた「御前崎」周辺の水準点との比高の差を用いて補正を行った。

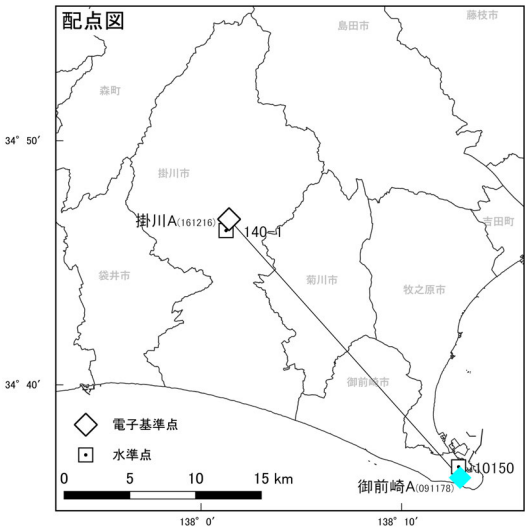
※ 電子基準点「御前崎Ａ」については、2010 年3 月23 日まで電子基準点「御前崎」のデータを使用.

※ 電子基準点「掛川Ａ」については、2017 年1 月29 日まで電子基準点「掛川」のデータを使用.

※ 2026年初頭頃から見られる沈降速度の増加は、東海地方の長期的ゆっくりすべりのすべりの中心が浜名湖の東側へ移動していることに伴う電子基準点「掛川A」等での変動の影響によるものである.

【長期間の上下変動】「固定局：掛川A（161216）」





- 水色のプロットは上記のGEONET による日々の座標値の月平均値.
- 灰色のプロットは電子基準点の最寄りの水準点「10150」の水準測量結果を示している（固定：140-1）.

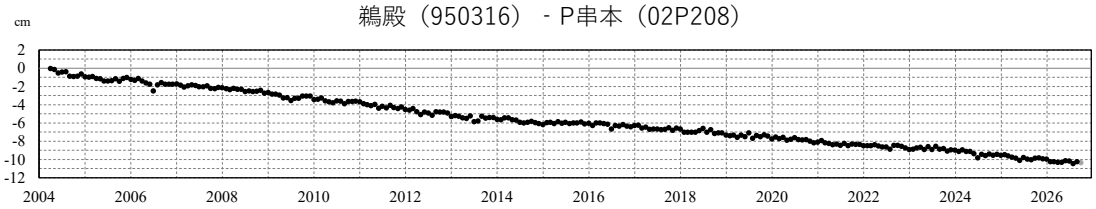
国土地理院

紀伊半島及び室戸岬周辺　電子基準点の上下変動

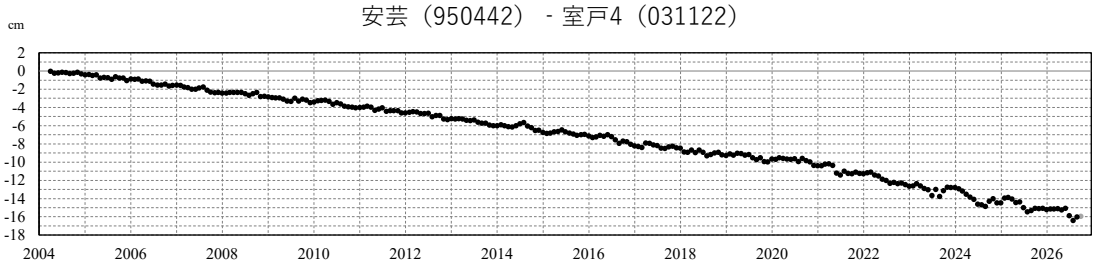
水準測量とGNSS連続観測

潮岬周辺及び室戸岬周辺の長期的な沈降傾向が続いている。

鵜殿（950316） - P串本（02P208）

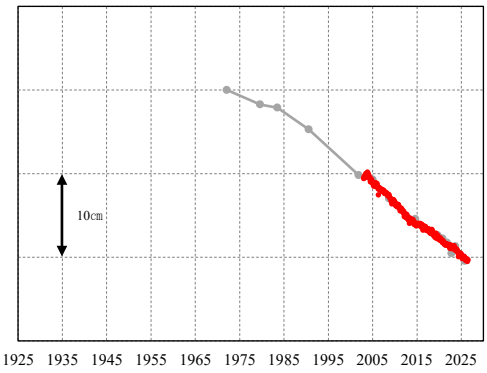


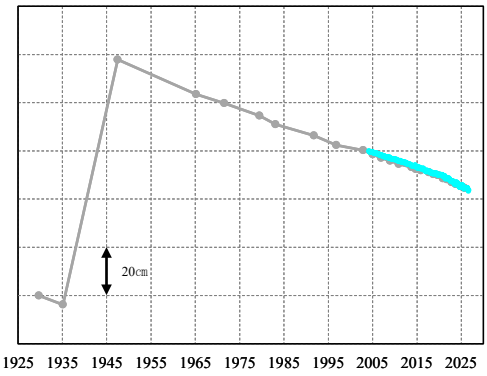
安芸（950442） - 室戸4（031122）

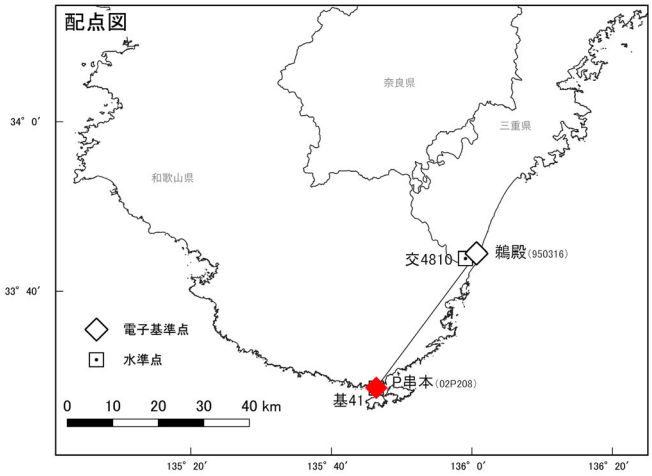


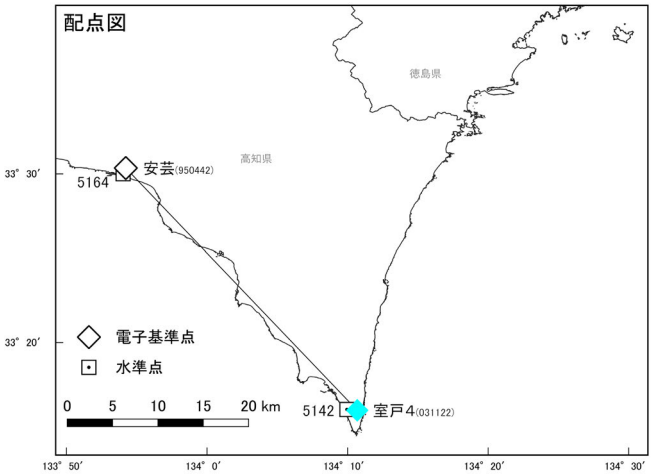
● ---［F5.1：最終解］ ● ---［F5.1：最終解］2026-10-01/2026-10-10 + ［R5.1：速報解］2026-10-11/2026-10-24

【長期間の上下変動】









- GNSS 連続観測のプロット点は，GEONET による日々の座標値（F5.1：最終解及びR5.1:速報解）から計算した値の月平均値.
- 灰色のプロットは電子基準点の最寄りの水準点の水準測量結果を示している（固定：交4810，5164）.

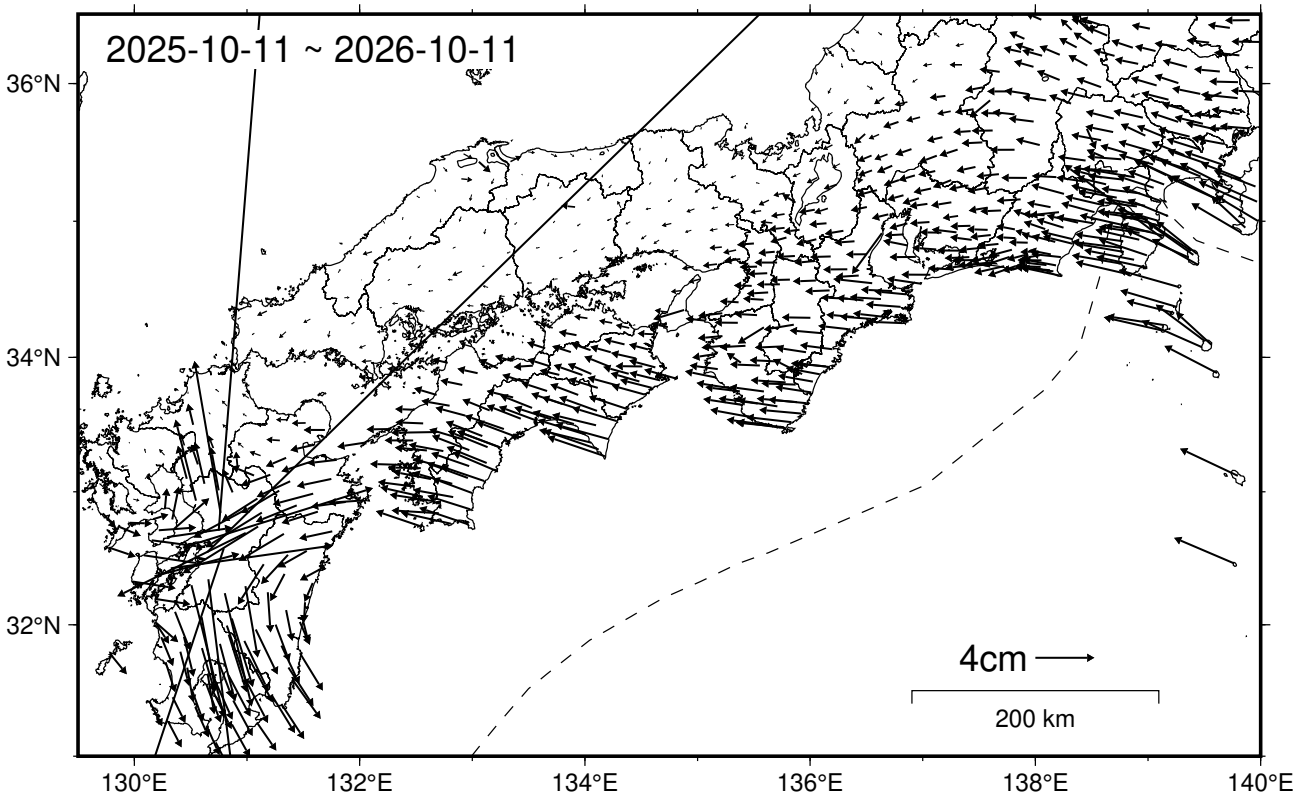
※　2021 年2 月2 日に電子基準点「安芸」のアンテナ更新及びレドーム交換を実施した.

※　2024 年11 月25 日に電子基準点「鵜殿」のアンテナ更新を実施した.

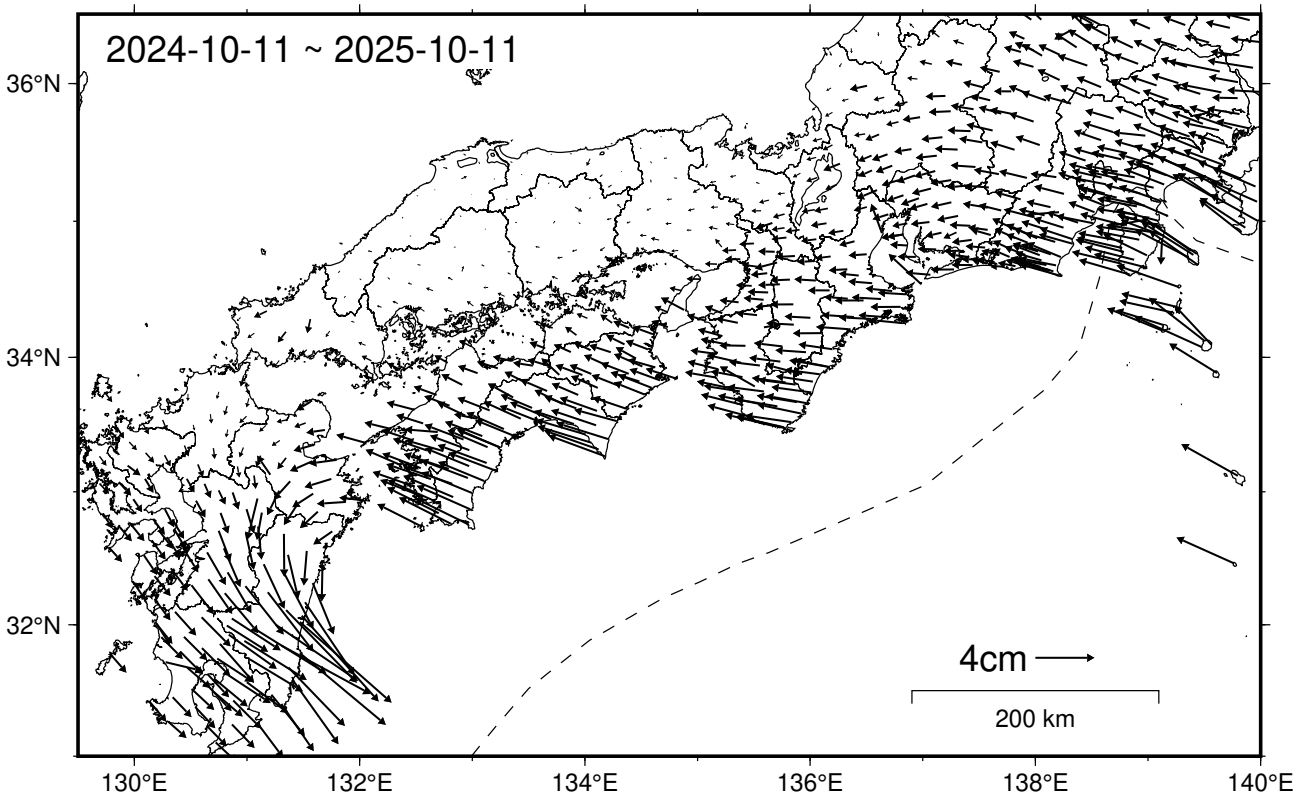
国土地理院

南海トラフ沿いの水平地殻変動【固定局：三隅】

【最近１年間】



【１年前の１年間】



・各日付 ± 6 日の計 13 日間の変動量の中央値をとり、その差から１年間の変動量を表示している。

国土地理院